

BVE TEL H 通信

2017年9月号 (第170号)

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL 089 - 925 - 5000
ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>

じりじりと太陽が照りつけ汗の噴き出る猛暑日が続いています。日野原重明先生が7月18日亡くなくなられました。死因は呼吸不全、ご自宅で亡くなられたそうです。105歳でした。新聞やテレビで先生の訃報があり、数々の功績が報じられました。

2000年緩和ケア病棟を開設した年の6月25日(日)『21世紀のホスピスは人の老いや死に対してどう対応するか』と題した日野原先生の講演会があり、その翌日ベテル病院の月曜日の朝礼において御高話をいただきました。6階の食堂まで階段で駆け上がられて、自由なトークキングはとても魅力的でした。『人生楽しそうだな。こうありたいな。』そう感じました。

私は50歳を過ぎるまで、『これからどうしよう』なんて考えたことはありませんでした。目の前で次々と起こる出来事をどんな風にバランスよくこなしていくか?そこにポイントがあったように思います。先生は「50過ぎると、子供のためでもなく、職場のためでもない、自分自身のための人生の始まり。これまでの人生で演じてきた社会的役割や肩書から解放されたとき、あなたは一体誰なのでしょう。どんな人間であり得るのでしょうか。」2001年に発刊された『生きかた上手』は、ベストセラーとなりましたが、本の冒頭にそのように書かれています。先生はこの本が、自分自身と出会えるきっかけの本となつてほしいという思いを込めて書かれたそうです。『身のほどを知ることは、希望を手にする第1歩。』『老いとは成熟、良いことは広めようという気概。悪いことは悪い。』様々な語りを多くの人に届けました。『これはいい。これはいける。』と確信したら、世の中を敵に回しても怖くないくらいの気合で突っ張る気合で突き進んだそうです。

人生の質を考え、生きる事と、良く生きることを区別し、良く生きるための努力をすべきであると言われていました。家庭や職場はクオリティーオブライフを高める場となり、尊敬しあい、信頼しあい、感謝しあって生きる中で人生の安らぎと喜びが生きがいとなり当人に返される。又、新しく始める事は、生活のデザインを心豊かにする。しかし贅沢というのではなく格調高く意味のある生活を送る。105歳まで元気に生きられた日野原先生が行き着いた人生感なのでしょう。

今、私たちは、病院という非日常的な空間の中で生活している患者様の治療や、日常生活の援助を行っています。看護介護の担い手は、平均40歳。こなすことで精いっぱい支援者です。生きる事へのケアが精一杯かもしれません。人生の先輩である高齢者の方の、より良く生きるためのお手伝いとは何か考えさせられます。人生の先輩が体調を崩し、日常生活がままならない状態にいる時こそ『その患者様にとっての、より良く生きるための支援は何か?』を考えるべきではないかと感じています。私たちができない出来ないこと。私たちが行おうべきこと。家族でないと出来ないこと。いつ手助けすればよいかのタイミングを見計らい、対処できればと考えます。聖路加国際病院の名誉院長という立場にありながら人生最後の場所は、ご自宅を選択されました。これからの医療のあるべき姿を物語っているように思います。

日野原先生のお話を直接お聞きすることはもうありませんが、沢山の著書が残されています。私の手元にも『生きかた上手』『生きることの質』という日野原先生の2冊の本があります。元気がなくなった時開いています。

皆さんも一度日野原先生の著書にふれてみてください。きっと自分自身に出会うことができるとおもいます。



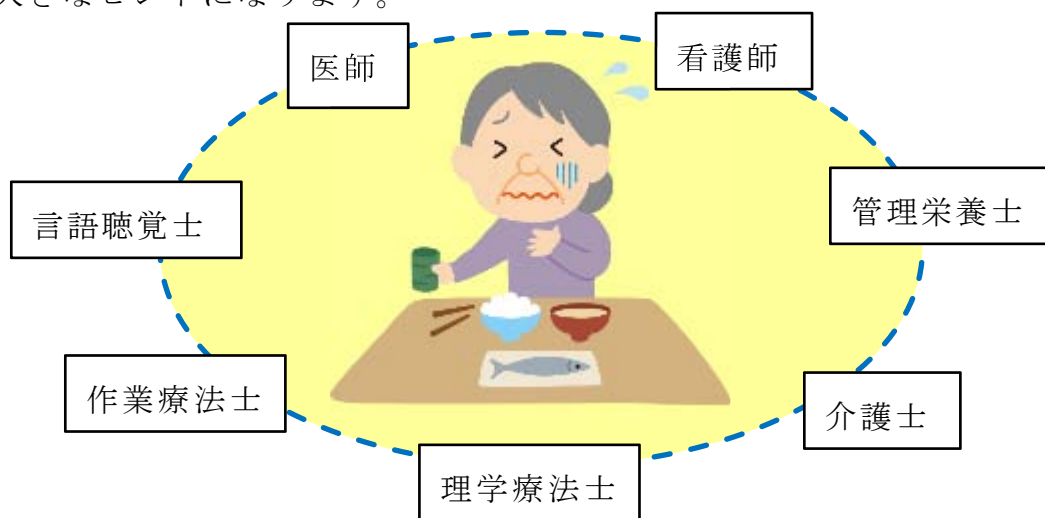
嚥下障害とリハビリ

嚥下とは、外部から水分や食物を口に取り込み、咽頭と食道を経て胃へ送り込む運動を言います。食べることは生きていく上で必要な栄養を摂るということだけでなく、味を楽しんだり満たされた時間を過ごすための大切な行為です。ところが生後から段階的に獲得してきた「食べる機能」が何らかの問題によって障害されることがあります。私たち言語聴覚士は医師の診断、指示のもと、より安全な食事が行えるよう嚥下機能の評価や必要なリハビリを行う役割をしています。

【嚥下機能の評価するポイント】

- | | | |
|----------------|-------|---------------|
| ①食べ物を認識する段階 | (認知期) | } 5期に分けて行います。 |
| ②食べ物を取り込んで嚙む段階 | (準備期) | |
| ③食べ物を喉に送り込む段階 | (口腔期) | |
| ④ゴクンと飲み込む段階 | (咽頭期) | |
| ⑤喉から食道へ送られる段階 | (食道期) | |

※嚥下機能の検査だけでなく、実際の食事場面の観察から問題点が明らかになることも多く、ムセや食べこぼし食欲、好みの変化や違和感は、障害発見の大きなヒントになります。



嚥下障害に対するリハビリは、チームアプローチが不可欠で、基本的には環境や食事形態の調整と機能訓練を行います。しかし多くの嚥下障害の患者様と関わるなかで、最も大切なのは「食べる意欲」であると感じています。

食事に対する意欲は嚥下機能だけでなく、生活環境や生活リズム、他者との交流関係、口腔内環境などが影響することがあります。また逆に食事を通して満足感を得て、生活意欲の向上を目指せたり、コミュニケーションの場が広がったりと、精神的、社会的な意義に繋がることもあります。食事が安全で楽しく、一人ひとりにとってより意味のあるものになるよう、多角的な視点での丁寧な関わりに務めたいと思います。

外来からのお知らせ

◎ 9月の休診（8月23日現在）

9月 1日（金）	神経内科	西川 典子	医師
9月 4日（月）	整形外科	益田 紀志雄	医師
9月 14日（木）	外科	山本 祐司	医師
9月 14日（木）	内科	三好 賢一	医師
9月 22日（金）	神経内科	西川 典子	医師
9月 26日（火）	脳神経外科	森 洋二	医師



◎ 9月の豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）外来診療日のお知らせ 9月13日（水）、9月27日（水）

新

人

紹

介

おかざき いずみ
岡崎 泉さん



配属部署：ベテルケア
プランセンター
職 種：介護支援専門員
出身地：松山市
星座：かに座
趣味：お寺参り、旅行
好きな物：スイーツ
尊敬する人：父親
好きな言葉：しなかった後悔
よりもやってかた
らの後悔をしたで
ほうが有意義で
ある。一期一会
抱 負：出会いを大切に。ご
利用者様やご家
族が安心して暮
らせるようにお
手伝いさせてい
たきます。

なかむら あやの
中村 綾乃さん



配属部署：2階東病棟
職 種：看護師
出身地：松山市
星座：うお座
趣味：ホットヨガ
好きな物：犬（愛犬）
尊敬する人：母
好きな言葉：なりたかった自
分になるのに遅
すぎるとい
うことはない
抱 負：精一杯頑張りますの
でよろしく願
います。

きくち かずよ
菊池 和代さん



配属部署：4階病棟
職 種：看護師
出身地：南予
星座：しし座
趣味：カラオケ・ドライブ
好きな物：ネコ・ひまわり・
ドリカム
尊敬する人：母
好きな言葉：その先へ！！
抱 負：初心を忘れず、前向
きに頑張ります。



ベテル句会

- ゆかた着て
昔を想う
たんこう節
(節子)
- コスモスの
無心に風と
たわむれぬ
(渡部 俊一)
- ピアガーデン
日々是好日の
発展か
(無名)
- 汗見せず
そのやさしさや
主人くる
(丹生谷 千栄美)
- 星に願ふ
坂の上なる
療養所
(瑛子)
- せみしぐれ
暑き奏でる
はかなくも
(向井 ツマ子)
- お世話する
ベテルで広がる
友達の輪
(別府 祐子)
- 老夫婦の
祈りは一つ
万灯会
(俊山)
- 覇者敗者
泣いて球児の
夏終る
(清水 寿満子)

投句箱は受付・各病棟・5階リハビリ室に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
『ベテル通信』についてのご意見やご要望をお待ちしております